

編入学・転部(学部間)・転籍試験

2年次 小論文

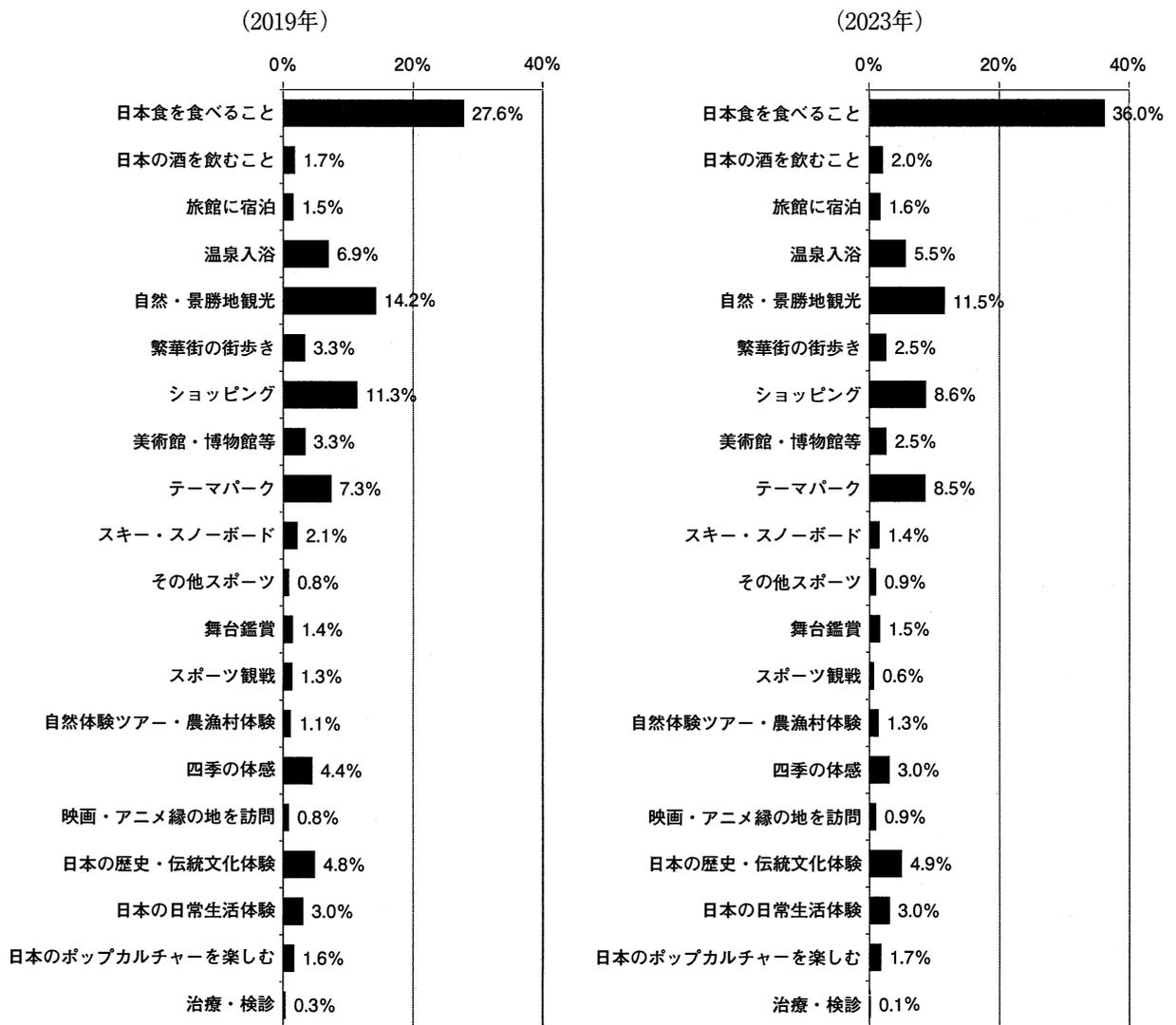
1. 指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名・フリガナを記入しなさい。
3. この問題冊子の不ぞろい等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
4. 解答時間は60分です。
5. 試験終了まで、受験者の退出は認めません。

問題 以下の図表および資料は、訪日観光客の特徴や、訪日外国人に対する二重価格に関するものである。以下の問に、すべて答えなさい。

問1 図表①から読み取れる内容として、誤っているものをすべて選択しなさい。誤っているものがない場合は、選択肢4を選びなさい。

1. 訪日前に最も期待されていることは「日本食を食べること」であり、いずれの年も「自然・景勝地観光」と「ショッピング」の合計値よりも数値が大きい。
2. 2019年と2023年を比較したとき、上位5つの順位に変化はない。
3. 2019年と2023年を比較したとき、数値が3%以上変化しているのは「日本食を食べること」のみである。
4. 誤っている選択肢はない。

図表① 訪日前に最も期待していたこと（全国籍・地域、単一回答、2019年と2023年）



資料：観光庁「訪日外国人の消費動向 2019年年次報告書」、観光庁「訪日外国人の消費動向 2023年年次報告書」

問2 図表②から読み取れる内容として、誤っているものをすべて選択しなさい。誤っているものがない場合は、選択肢4を選びなさい。

1. 全体として、満足した理由では、「美味しい」と「食材が新鮮」が上位2位となっており、飲食区分による違いもない。
2. 全体として、2019年と2023年を比較したとき、満足した理由に関して、上位5つの順位に変化はない。
3. 全体として、2019年と2023年を比較したとき、数値が5%以上変化しているのは「価格が手頃・自国より安い」のみである。
4. 誤っている選択肢はない。

図表② 最も満足した飲食とその理由（全国籍・地域、複数回答、2019年と2023年）

飲食区分	(2019年) (%)														(2023年) (%)													
	「最も満足した飲食」 (自由記入による単一回答)	美味しい	食材が新鮮	自国で味わうことができない	価格が手頃・自国より安い	量や種類が適切	伝統的・日本独特	好きな料理・食品である	盛り付けの見た目が良い	人気がある・有名	健康に良い	店のサービスや雰囲気	その他	不明	「最も満足した飲食」 (自由記入による単一回答)	美味しい	食材が新鮮	自国で味わうことができない	価格が手頃・自国より安い	量や種類が適切	伝統的・日本独特	好きな料理・食品である	盛り付けの見た目が良い	人気がある・有名	健康に良い	店のサービスや雰囲気	その他	不明
寿司	15.6	91.2	70.1	10.6	15.1	6.1	26.4	19.9	6.7	11.7	10.2	8.3	0.2	0.0	15.0	93.6	74.2	13.5	21.9	8.0	22.0	20.2	6.9	10.8	8.2	7.8	0.3	0.0
ラーメン	19.3	94.1	26.3	16.7	13.0	6.7	25.2	20.8	4.1	18.5	3.4	7.5	0.6	0.0	19.1	95.2	24.7	23.5	19.7	7.8	22.4	20.6	4.0	18.0	2.3	7.6	0.4	0.0
そば・うどん	4.4	92.1	21.8	20.1	11.6	5.9	28.9	17.0	3.5	8.6	8.8	8.2	0.9	0.0	4.9	95.3	26.2	29.0	19.5	11.3	29.0	20.0	4.5	12.1	8.7	8.9	0.2	0.0
肉料理	26.7	94.9	43.5	17.9	12.1	6.8	18.7	20.9	4.9	14.4	3.0	9.3	0.3	0.0	30.2	95.6	42.9	18.8	19.3	9.1	17.0	20.9	5.0	13.4	1.9	11.2	0.3	0.0
魚料理	12.6	90.0	72.2	16.3	11.1	4.7	23.4	20.8	8.2	11.8	8.1	6.8	0.2	0.0	9.5	93.7	67.4	18.0	19.9	7.7	19.0	20.0	8.4	11.1	7.2	8.5	0.4	0.0
小麦粉料理	3.4	92.8	26.6	34.8	13.6	7.0	40.3	15.0	7.1	19.9	3.8	10.8	1.4	0.0	3.9	95.3	28.4	30.7	18.8	9.4	34.2	16.1	3.9	20.2	3.3	8.9	0.2	0.0
その他日本料理	6.5	91.4	39.2	20.5	10.1	7.7	37.2	16.9	14.1	7.8	9.2	9.8	0.9	0.0	6.2	93.5	40.6	26.4	16.7	12.0	34.3	14.8	14.6	9.9	7.4	11.1	0.6	0.0
外国の料理	0.7	88.5	23.9	11.7	9.9	7.0	5.9	25.3	6.9	5.2	3.8	10.6	4.1	0.0	0.6	93.7	19.7	12.8	20.6	11.2	4.5	19.5	6.8	7.0	4.5	18.7	2.0	0.0
その他料理	4.3	90.9	33.1	19.6	11.5	10.8	22.1	21.2	10.6	9.4	5.4	10.1	0.7	0.0	4.6	92.8	29.9	20.2	16.4	11.0	16.4	16.3	8.5	10.1	4.1	9.1	0.8	0.0
菓子類	3.1	94.3	22.5	20.7	8.4	3.8	22.4	16.3	7.9	19.6	4.4	4.8	0.3	0.0	2.7	95.8	20.7	25.7	15.6	5.0	20.1	12.3	7.7	13.8	2.2	4.4	1.1	0.0
果物	0.6	93.0	68.1	17.3	11.1	2.0	14.4	11.8	3.2	6.3	10.1	2.4	0.2	0.0	0.4	96.8	57.5	19.5	24.4	2.3	6.8	10.7	1.3	4.4	3.0	2.6	0.5	0.0
酒	1.1	86.0	15.1	20.6	13.1	3.2	26.4	12.4	2.1	12.7	4.7	4.8	0.6	0.0	1.1	91.8	32.3	34.5	33.3	6.2	32.5	9.5	1.3	28.3	3.4	9.0	0.9	0.0
その他食品・飲料	1.6	86.7	25.4	22.1	9.3	3.3	21.1	13.1	3.6	8.8	20.8	5.1	1.7	0.0	1.8	89.6	28.5	25.4	15.9	3.6	23.4	11.2	3.8	12.8	17.0	5.1	0.0	0.0
全体	100.0	92.7	44.4	17.4	12.3	6.4	24.4	19.7	6.3	13.7	6.0	8.3	0.5	0.0	100.0	94.6	43.3	20.8	19.5	8.7	21.5	19.2	6.1	13.6	4.6	9.1	0.4	0.0

資料：観光庁「訪日外国人の消費動向 2019年年次報告書」、観光庁「訪日外国人の消費動向 2023年年次報告書」

問3 【資料1】と【資料2】は、訪日外国人に対する二重価格についての議論をまとめたものである。【資料1】と【資料2】、そして自身の知識をすべて用いて、訪日外国人への二重価格に対する自身の考えを800文字以内でまとめなさい。

【資料1】

コロナ禍後、歴史的円安の状況で海外からの旅行客が日本の各地で溢れかえっている。かつて、日本は物価高の国として有名で、国民の不満も大きく、「内外価格差の是正」が重要な政治課題となっていた。しかし、現在の日本は逆に物価の安い国として認識されるようになった。

当然、需要過剰になれば価格は上がるし、コロナ禍で疲弊した宿泊業や飲食業にとっては稼ぎ時で値上げが相次いでいる。それは日本経済にとってはよいことに違いないが、日本に住み日本円で収入を得る国民にとっては値上げラッシュで生活苦を感じ始めている人は多い。

そこで、最近、外国人向けの「二重価格」を設定することが議論になっている。円安で殺到する外国人に高い価格を提示し、日本人と区別することの是非だ。

海外ではどうであろうか。筆者自身の経験では台湾のホテルで外国人と自国人との二重価格に接したことがある。ただし、そこでの表記は「自国民優遇料金」だった。自国民である証明書の提示で優遇料金となる。外国人価格を高くするのではなく、自国民価格を安くするという形だった。

飲食店での二重価格はさらに難しい。限られた空間で同時に飲食するからだ。同じ料理でも日本語メニューと英語などの外国語メニューで異なる価格にする方法がありえるが、これは「ぼったくり」に映る。また、スマホで画像翻訳も簡単にできる時代だ。

日本人には割引するという方法もありえるが、身分証明書などの確認も煩雑となる。また、日本人と外国人が混じったグループの場合はどうするのか、という別の問題が出てくる。SNSが発達した今日、そのようなことをすればたちまち店の悪評が立ち、高くしたいはずの外国人が入店しなくなるということもありえる。

自由競争下では、価格は当事者間で自由に決められる。同じサービスや物で相手によって取引価格が違ってても本来は問題とはならない。ただ、そこでは、契約当事者の立場が対等であり、自由意思によって契約条件が決定されるという前提がある。

しかし、事業者と消費者（BtoC）の取引においては、情報力、資金力、交渉力等において立場の非対等性が指摘されている。たとえば、契約自由の原則には「相手を選ぶ自由」を含むが、「外国人お断り」などの売り手の意思表示は差別として問題となりえる。

売り手の市場での影響力は格段に大きい場合もあり、社会的な影響が大きいからだ。大手の飲食店等が、同じ商品を外国人には高く売ような状況は同様に認識される可能性がある。

細川 幸一（日本女子大学名誉教授）

「外国人観光客に高い料金『二重価格』設定は差別か」

『東洋経済ONLINE』2024年5月16日（デジタル版、一部改変）

【資料2】

世界遺産・姫路城について、兵庫県姫路市が外国人観光客の入城料を高く設定することを検討すると明らかにした。大阪府も外国人観光客から「徴収金」を集めることを議論しているほか、民間にも「二重価格」導入の動きが出ている。

「7ドルで入れる世界遺産は姫路城だけ。外国の人は30ドル払っていただいて、市民は5ドルぐらいにしたい」

姫路城を管理する姫路市の清元秀泰市長は16日、市内で開かれた国際会議で姫路城の入城料値上げに言及した。市は約10年ごとの入城料改定も視野に、姫路城の保存活用計画策定の議論を進めている。

入城料は現在、18歳以上で1千円。1ドル=150円台後半の現在の為替相場で換算すると、6.5ドルほどで、外国人観光客の「30ドル」は約4倍の値上げとなる計算だ。

保存活用計画では、城内堀の石垣の点検や瓦や白しっくい職人育成に必要な経費も盛り込むことを検討しており、増大が予想されるコストをまかなうためには値上げの必要があるとした。

さらに、姫路市のインバウンドについては「市民がバスに乗れないというような、京都でのオーバーツーリズム（観光公害）の議論と同じとは言えない」としたうえで、木造建築である姫路城に登閣する人数は、保護の観点から制限する必要があるとの見解を示した。

料金差については、「日頃から自分の庭のように感じ、清掃ボランティアにも積極的に参加していただいている市民の負担を増やすという決断は難しい。姫路城の価値を理解し、海外から姫路城を目的地に来られる方に応分の負担をお願いする、という議論をしてもよいのではないかと説明。「市民と外国人観光客とで別料金を設定することはグローバルスタンダードだと考える」と述べた。

「姫路城が検討する外国人への『二重価格』 民間にも導入の動き」

『朝日新聞』2024年6月22日（デジタル版、一部改変）

問題はここまでです